

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-175863

(43)Date of publication of application : 14.07.1995

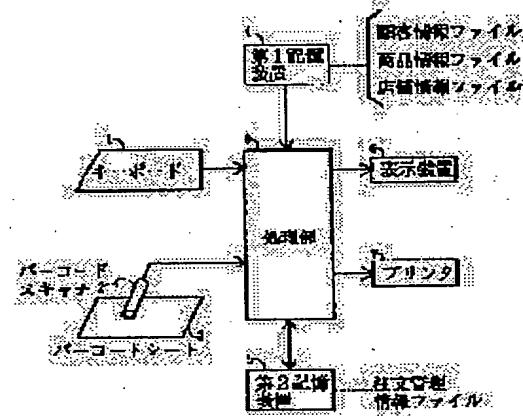
(51)Int.CI. G06F 17/60
G07G 1/12(21)Application number : 05-343727 (71)Applicant : PASOKON SERVICE GUNMA:KK
UERUKAMU SHOJ:KK(22)Date of filing : 16.12.1993 (72)Inventor : GOUNAI GAKUO
SATO MASAHITO

(54) DELIVERY SERVICE ORDER PROCESSOR IN RESTAURANT

(57)Abstract:

PURPOSE: To perform delivery service in a restaurant smoothly.

CONSTITUTION: A customer code, a customer name, and map data representing the address of a customer are stored by allowing correspond to each other and also, a product code classified by every delivery service target product and a product name are stored by allowing correspond to each other in a first memory device 4 in advance. A processing part 8, when the customer code, the product code, and quantity being inputted by a clerk by using a keyboard 1 and a bar code scanner 2 when a delivery service order is accepted, stores the customer code, the product code, and the quantity at every order in a second memory device 2 as order managing information. After that, the processing part 8 prints an account bill including the customer name, the product name and the quantity, and a map classified according to orders on a printer 7 by referring to information stored in the first memory device 4 and the second memory device 5 automatically or according to the instruction of a user.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-175863

(43)公開日 平成7年(1995)7月14日

(51)Int.Cl. ⁶ G 0 6 F 17/60 G 0 7 G 1/12	識別記号 3 6 1 C	庁内整理番号 F I	技術表示箇所 G 0 6 F 15/ 21 3 3 0 Z
---	-----------------	---------------	-------------------------------------

審査請求 未請求 請求項の数12 FD (全 25 頁)

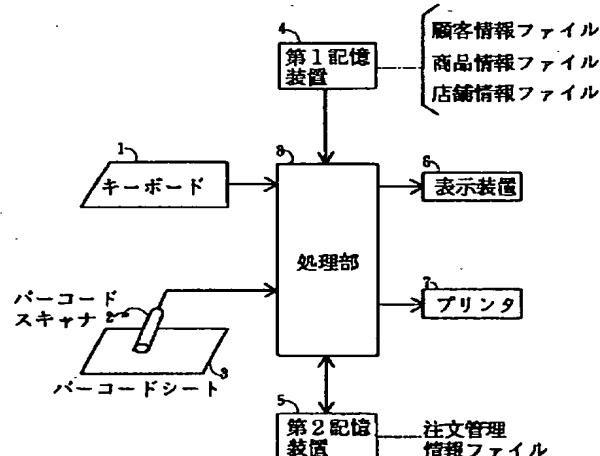
(21)出願番号 特願平5-343727	(71)出願人 594010917 有限会社パソコンサービス群馬 群馬県群馬郡群馬町大字足門248番地
(22)出願日 平成5年(1993)12月16日	(71)出願人 594010928 有限会社ウエルカム商事 群馬県高崎市八千代町4丁目14番3号
	(72)発明者 郷内 岳夫 群馬県群馬郡群馬町大字足門248番地 有限会社パソコンサービス群馬内
	(72)発明者 佐藤 正仁 群馬県高崎市八千代町4丁目14番3号 有限会社ウエルカム商事内
	(74)代理人 弁理士 坪内 康治

(54)【発明の名称】 飲食店における出前注文処理装置

(57)【要約】

【目的】 飲食店における出前サービスを円滑に行えるようとする。

【構成】 予め第1記憶装置4に顧客別の顧客コード、顧客名、顧客所在地を表した地図データを対応付けて記憶しておくとともに、出前対象商品別の商品コード、商品名を対応付けて記憶しておく。出前注文受付時、キーボード1、バーコードスキャナ2で店員により顧客コード、商品コード及び数量が入力されると、処理部8は第2記憶装置5に注文別に、顧客コード、商品コード及び数量を注文管理情報として記憶させる。このあと、処理部8は自動またはユーザの指示に従い、第1記憶装置4、第2記憶装置5に記憶された情報を参照して、注文別に分けた顧客名、商品名及び数量、地図を含む会計伝票をプリンタ7に印刷させる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 予め、顧客別に、顧客特定情報と対応付けて顧客所在地を表した地図データを記憶させた顧客情報記憶手段と、

出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報、注文商品を特定する情報及び数量の入力を行う入力手段と、入力手段での入力内容に基づき、顧客特定情報、商品特定情報及び数量を対応付けて注文管理情報として記憶する注文管理情報記憶手段と、

出前注文受付後、自動若しくはユーザによる指示を受けて、各記憶手段に記憶された情報を参照しながら、注文別に分けた顧客特定情報、商品特定情報及び数量、地図を含む伝票を印刷手段に印刷させる印刷処理手段と、を備えたことを特徴とする飲食店における出前注文処理装置。

【請求項2】 顧客情報記憶手段に、顧客別の配達エリアを記憶しておき、

印刷処理手段が伝票を印刷させる際、配達エリアも印刷させるようにしたこと、

を特徴とする請求項1記載の飲食店における出前注文処理装置。

【請求項3】 予め、顧客別に、顧客特定情報と対応付けて顧客所在地を表した地図データと配達エリアを記憶させた顧客情報記憶手段と、

出前注文受付時は注文別の顧客を特定する情報、注文商品を特定する情報及び数量の入力、調理指示時は調理を指示する注文の選択入力を行う入力手段と、

入力手段での入力内容に基づき、注文別に、顧客特定情報、商品特定情報及び数量、調理指示有無情報を対応付けて注文管理情報として記憶する注文管理情報記憶手段と、

調理指示時に、各記憶手段に記憶された情報を参照しながら、調理指示有無情報が調理指示無しとなっている各注文別の少なくとも配達エリア、または当日受け付けた各注文別の少なくとも調理指示有無情報と配達エリアを含む調理指示画面を表示手段に表示させる表示処理手段と、

調理指示後、自動若しくはユーザの指示を受けて、各記憶手段に記憶された情報を参照しながら、今回、調理が指示された全ての注文につき、注文別に分けた顧客特定情報、商品特定情報及び数量、地図を含む伝票を印刷手段に印刷させる印刷処理手段と、

を備えたことを特徴とする飲食店における出前注文処理装置。

【請求項4】 予め、顧客別に、顧客特定情報と対応付けて顧客所在地を表した地図データと配達エリアを記憶させた顧客情報記憶手段と、

出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報、注文商品を特定する情報及び数量の入力を行う入力手段と、

入力手段での入力内容に基づき、注文別に、顧客特定情

2

報、商品特定情報及び数量を対応付けて注文管理情報として記憶する注文管理情報記憶手段と、各記憶手段に記憶された情報を参照しながら、所定時点毎に自動的に、調理未指示の注文の中で、同一または隣接する配達エリアとなっている複数の注文につき一括して、注文別に分けながら顧客特定情報、商品特定情報及び数量、地図を含む伝票を印刷手段に印刷させる印刷処理手段と、を備えたことを特徴とする飲食店における出前注文処理装置。

【請求項5】 顧客情報記憶手段に、顧客別の住所または電話番号も記憶させておき、印刷処理手段は注文別の伝票を印刷する際、顧客の住所または電話番号も印刷させるようにしたこと、を特徴とする請求項1または3または4記載の飲食店における出前注文処理装置。

【請求項6】 ユーザにより地図無しが指示されたとき、印刷処理手段は地図無しの伝票を印刷させるようにしたこと、

20 を特徴とする請求項1または3または4記載の飲食店における出前注文処理装置。

【請求項7】 入力手段で任意顧客の地図印刷を指示できるようにし、入力手段で任意顧客の地図印刷が指示されたとき、印刷処理手段は顧客情報記憶手段を参照しながら入力手段で指示された顧客の地図を印刷手段に印刷させるようにしたこと、

を特徴とする請求項1または3または4記載の飲食店における出前注文処理装置。

30 【請求項8】 予め顧客別に、顧客特定情報と対応付けて顧客所在地を表した地図データを記憶させた顧客情報記憶手段と、

出前注文受付時に注文別の顧客を特定する情報、注文商品を特定する情報及び数量の入力を行う入力手段と、入力手段での入力内容に基づき、顧客特定情報、商品特定情報及び数量を対応付けて注文管理情報として記憶する注文管理情報記憶手段と、

出前注文受付後、自動若しくはユーザによる指示を受けて、各記憶手段に記憶された情報を参照しながら、注文別に分けた顧客特定情報、商品特定情報及び数量を含む伝票を印刷手段に印刷させる印刷処理手段と、を備え、

入力手段で任意顧客の地図印刷を指示できるようにし、入力手段で任意顧客の地図印刷が指示されたとき、印刷処理手段は顧客情報記憶手段を参照しながら操作手段で指示された顧客の地図を印刷手段に印刷させるようにしたこと、

を特徴とする飲食店における出前注文処理装置。

【請求項9】 顧客情報記憶手段に、顧客別の住所または電話番号も記憶させておき、

50

操作手段で任意顧客の地図印刷が指示されたとき、印刷処理手段は地図とともに住所または電話番号も印刷せるようにしたこと。

を特徴とする請求項7または8記載の飲食店における出前注文処理装置。

【請求項10】 印刷処理手段は今回、伝票を印刷した全ての注文の商品特定情報及び数量を表した調理指示書を伝票とは別に印刷せざるようとしたこと、
を特徴とする請求項3または4記載の飲食店における出前注文処理装置。

【請求項11】 商品情報記憶手段に商品別の調理部署情報を記憶させておき、
印刷処理手段は調理指示書を印刷する際、調理部署別に分けて商品特定情報及び数量を印刷せざるようとしたこと、
を特徴とする請求項10記載の飲食店における出前注文処理装置。

【請求項12】 調理部署毎に印刷手段を設置しておき、印刷処理手段は或る調理部署に対する調理指示書を当該調理部署に設置された印刷手段で印刷せざるようとしたこと、

を特徴とする請求項11記載の飲食店における出前注文処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は飲食店における出前注文処理装置に係り、とくに飲食店での出前注文の受付、注文品の調理、配達等、出前サービスをミスなく円滑に行えるようにした飲食店における出前注文処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 飲食店が出前サービスを行う場合、店員は出前注文の受付、調理の指示、配達、集金及び容器の回収の各作業を行う必要がある。具体的には、電話で出前の注文が入ったとき、注文主の名前と場所、電話番号、注文品と数量などを聞いてメモ用紙に書き留め、調理場に注文内容を伝えて調理を依頼する。そして、全ての調理が終わったら、出前ケースに収めて注文主の所に自転車、バイク等で配達したり、調理品を車両に乗せて配達する。配達時、代金の全額または一部を受け取って帰り、あとで、再び訪問して容器を回収し、代金の残りを集金して帰る。

【0003】 このような出前サービスにおいて、店員にはアルバイトが多く、仕事内容への熟練度が低いことから、出前注文は昼食時間帯や夕食時間帯など、店内が最も忙しい時間に集中することなどから様々な問題が生じる。例えば、店員によってメモの取り方が異なったり、字のクセがあったりして、注文を受け付けた店員とは異なる店員が誤読して調理場に伝えたり、調理担当者がメモ書きを読んだ時、誤読したりして注文とは異なる商

品、数量を調理してしまうことがある。また、調理場が広かったり、種類別に調理場が異なるとき、調理依頼に手間取ったり、依頼ミスが生じたりする。

【0004】 更に、配達するため調理済商品を出前ケースに入れたり、車両に乗せる際も、メモ書きの誤読で商品や数量を間違えることがあり、また新人の場合、注文主の家が判らず、場所探しに多大の時間が掛かったり、全く方向の異なる複数の注文主への配達を一緒にしようとして、後の注文主への配達が大幅に遅れてしまつて注文主から度重なる督促を受けたり、キャンセルされてしまうことがある。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】 飲食店でも一部のチェーン店などではパソコン等によるOA化が進められているが、従来の飲食店用業務処理装置はあくまで店内サービスに関するものに限られており、出前サービスについて上記したような問題を解決する装置は存在しなかつた。以上から、本発明は、飲食店での出前サービスを円滑に行えるようにした飲食店における出前注文処理装置を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】 上記課題は本発明によれば、予め、顧客別に、顧客特定情報と対応付けて顧客所在地を表した地図データを記憶させた顧客情報記憶手段と、出前注文受付時に注文別の顧客特定情報、商品特定情報及び数量の入力を行う入力手段と、入力手段での入力内容に基づき顧客特定情報、商品特定情報及び数量を記憶する注文管理情報記憶手段と、出前注文受付後、自動若しくはユーザーによる指示を受けて、各記憶手段に記憶された情報を参照しながら、注文別に分けた顧客特定情報、商品特定情報及び数量、地図を含む伝票を印刷手段に印刷せしめる印刷処理手段とを備えたことにより達成される。

【0007】

【作用】 本発明によれば、予め顧客情報記憶手段に顧客別に、顧客特定情報と対応付けて顧客所在地を表した地図データを記憶させておき、出前注文受付時に入力手段での入力内容に基づき顧客特定情報、商品特定情報及び数量を注文別に注文管理情報記憶手段に記憶したあと、自動若しくはユーザーによる指示を受けて、印刷処理手段が注文別に分けた顧客特定情報、商品特定情報及び数量、地図を含む伝票を印刷手段に印刷せしめる。

【0008】 これにより、メモ用紙を用いずに出前注文の受付、伝票の発行ができるので、注文受付時と調理依頼時とで店員が変わっても、伝票を調理場に回すことでの正確な調理依頼を出せる。また、伝票に顧客所在地を表す地図が印刷されていることから、該地図を参考にして配達することで、地理に不案内な新人の店員であっても、間違いなく短時間で配達を済ますことができる。

【0009】 また、顧客情報記憶手段に、顧客別の配達

エリアを記憶しておき、伝票を印刷させる際、配達エリアも印刷させる。これにより、或る時間幅で受け付けた複数の注文についての伝票印刷後、伝票に記された配達エリアが同一か隣接する注文をまとめて調理依頼すれば、調理完了後、複数の出前先に短時間で配達することができる。しかも、複数の注文につき一度に調理が完了しても、伝票で注文別の商品と数量を確認すれば、出前ケースに収納したり、車両に乗せる際に、商品間違いが起きず、更に、伝票を持参していくことで、顧客に渡す商品間違いも無くなる。

【0010】また、出前注文受付時、入力手段での入力内容に基づき顧客特定情報、商品特定情報及び数量、調理指示無しとした調理指示有無情報を対応付けて注文別に注文管理情報記憶手段に記憶しておき、調理指示時、調理指示有無情報が調理指示無しとなっている各注文別の少なくとも配達エリア、または当日受け付けた各注文別の少なくとも調理指示有無情報と配達エリアを含む調理指示画面を表示し、入力手段で調理を指示する注文の選択がなされたとき、当該注文につき調理指示有無情報を調理指示有りとして注文管理情報記憶手段に記憶するとともに、自動若しくはユーザの指示を受けて、各記憶手段に記憶された情報を参照しながら、今回、調理が指示された全ての注文につき、注文別に分けて顧客特定情報、商品特定情報及び数量、地図を含む伝票を印刷する。

【0011】これにより、メモ用紙を用いずに出前注文の受付、伝票の発行ができるので、注文受付時と調理依頼時とで店員が変わっても、伝票を調理場に回すことでの正確な調理指示を出せる。また、調理指示操作をする際、画面に調理未指示の各注文別の配達エリアが表示されるので、配達エリアが同一または隣接する複数の注文について簡単に一括した調理指示を行うことができるとともに、出来上がり後は複数の出前先に短時間で配達することができる。更に、複数の注文につき一度で配達する場合、伝票により、出前ケースに収納したり、車両に乗せる際、商品間違いが起きず、伝票を持参していくことで、新人であっても顧客所在地が簡単に判り、速やかに所望顧客への配達をすることができ、この際、顧客に渡す商品間違いも起きない。

【0012】また、所定時点毎に自動的に、それまでに受付済の注文であって調理未指示の注文の中で、同一または隣接する配達エリアとなっている複数の注文につき一括して、注文別に分けながら顧客特定情報、商品特定情報及び数量、地図を含む伝票を印刷する。これにより、それまでに受付済の注文に対し、所定時点毎に自動的に、同一または隣接する配達エリアとなっている複数の注文につき一括して、注文別に分けながら顧客特定情報、商品特定情報及び数量、地図を含む伝票が印刷されるので、ユーザが調理指示操作をする手間が省ける。

【0013】また、顧客情報記憶手段に、顧客別の住所

または電話番号を記憶しておき、伝票を印刷する際、顧客の住所または電話番号も印刷する。これにより、地図だけでは顧客所在地が良く判らなかった場合、伝票の住所をもとに第3者に聞いて確認したり、顧客に電話を掛けて直接確認することができ、配達時の利便性が向上する。

【0014】また、ユーザにより地図無しが指示されたとき、地図無しの伝票を印刷する。これにより、印刷手段がインクリボン式、熱転着式の場合に消耗を軽減したり、用紙の節約をしたり、地図無し伝票の顧客への引き渡しが可能となる。

【0015】また、入力手段で任意顧客の地図印刷が指示されたとき、該指示された顧客の地図を印刷する。これにより、伝票発行とは別に所望顧客の地図を任意に発行でき、当該印刷した地図を持参することで、新人でも道を間違えることなく短時間で配達を済ますことができる。この場合、地図とともに住所または電話番号も印刷することで、地図だけでは顧客所在地が良く判らなかった場合、伝票の住所をもとに第3者に確認したり、顧客に電話を掛けて確認することができ、配達時の利便性が向上する。

【0016】また、伝票は地図を含ませずに印刷し、入力手段で任意顧客の地図印刷が指示されたとき、伝票とは別に該指示された顧客の地図を印刷する。これによつても、配達の便宜を図ることができる。

【0017】また、印刷処理手段は、今回伝票を印刷した全ての注文の商品特定情報及び数量を表した調理指示書を伝票とは別に印刷する。これにより、注文別の伝票とは別に調理が指示された全ての注文の商品特定情報及び数量をまとめた調理指示書を印刷するので、調理場には調理指示書を回して調理指示すれば、調理完了後、調理指示書を配達店員が回収しなくても伝票により、調理済商品がどの顧客に対するものか確認することができる。また、伝票だけ印刷し、伝票を調理場に回して調理指示したとき、調理完了後、伝票を配達店員が回収する必要があるが、このとき、回収した伝票と調理指示前の伝票を区別しないと、再度、調理指示してしまるミスを犯す恐れがあるが、伝票と調理指示書を分けたことで、上記ミスの発生を防止できる。

【0018】また、商品情報記憶手段に商品別の調理部署情報を記憶させておき、印刷処理手段は調理指示書を印刷する際、調理部署別に分けて商品特定情報及び数量を印刷する。これにより、調理部署が類似商品群毎に分かれても、各調理部署に確実に調理指示を出すことができ、また、各調理部署では複数の注文にわたる同一または類似の注文商品と一緒に調理できるので、調理を迅速に進めることができる。

【0019】また、調理部署毎に印刷手段を設置しておき、当該調理部署に対する調理指示書は当該調理部署に設置された印刷手段で印刷する。これにより、各調理部

署に調理指示書を配る手間が省ける。

【0020】

【実施例】図1は本発明の一実施例に係る出前注文処理装置の全体構成図である。この出前注文処理装置はパソコン等のコンピュータシステムを基本構成としている。1はキーボードであり、メニュー選択、顧客コード、担当者名、数量、金額等の入力に用いる。2はペン式のバーコードスキャナであり、バーコードシート3(図13参照)に印刷されたバーコードを読み取ることで、各種メニュー選択、店員コード入力、出前注文受付時の出前対象の商品コード及び数量の入力、調理指示時、配達登録時、入金入力時、容器回収登録時における注文選択等を行う。4は予め顧客情報ファイル、商品情報ファイル、店舗情報ファイルを記憶した第1記憶装置であり、顧客情報ファイルには顧客コード(本実施例では顧客の電話番号)、顧客名、住所、電話番号、配達エリアデータ、顧客所在地を表した地図データが対応付けて記憶しており、商品情報ファイルには商品コード、商品名、価格(単価)、調理部署データが対応付けて記憶しており、店舗情報ファイルには、店員コードと店員名が対応付けて記憶してある。店舗情報ファイルには、店舗名、店舗電話番号等も記憶されている。

【0021】配達エリアデータは本実施例では、図2に示す如く、店舗を中心とした全配達地域をn個の方向別に等分割(ここではn=8とする)した各配達エリアの内、顧客所在地の存在する配達エリアの番号であり、調理部署データは図3に示す如く、うどん類、そば類、御飯類等、調理場が類似商品群によってm個の部署別に分かれている場合に(ここではm=3とする)、各商品の調理される部署の番号である。地図データは、顧客別に店舗から顧客所在地までの経路を分かり易く手書きし、イメージスキャナで読み取ることで作成してある。

【0022】5は注文管理情報ファイルを記憶する第2記憶装置であり、ここでは、注文別の管理情報として、受付年月日時刻、受付NO(同日の最初の注文が1)、受付店員コード、顧客コード、顧客側担当者名(顧客が企業、官庁等の場合)、商品コードと数量、注文代金(1回の注文での総額)、入金総額、入金入力毎の入金入力年月日時刻、入金入力店員コード、入金額、調理指示時刻、調理指示店員コード、調理指示有無情報、配達登録時刻、配達店員コード、配達有無情報、容器回収登録年月日時刻、容器回収店員コード、容器回収有無情報が含まれる。

【0023】6はメニュー画面のほか、注文受付画面、調理指示画面、配達登録画面、入金入力画面、容器回収登録画面など各種画面を表示する表示装置、7は調理部署別に分けた調理指示書や注文別に分けた会計伝票、任意顧客の地図を印刷するプリンタ、8は出前注文処理に必要な所定の注文管理処理、表示処理、印刷処理を行う処理部であり、キーボード1やバーコードスキャナ2で

の操作に従い、第1記憶装置4、第2記憶装置5に記憶された情報を適宜参照するとともに、注文別の注文代金や入金総額の計算を行なながら注文別の注文管理情報を第2記憶装置5に記憶させたり、メニュー画面等の各種画面を表示装置6に表示させたり、調理部署別に分けた調理指示書や注文別に分けた会計伝票、任意顧客の地図をプリンタ7に印刷させたりする。

【0024】図4～図12は処理部8の動作を示す流れ図、図13はバーコードシート3の説明図、図14～図

22は画面表示例の説明図、図23は調理指示書の説明図、図24は会計伝票の説明図、図25は印刷地図の説明図であり、以下、これらの図に従って説明する。なお、店舗の電話がコードレスでないとき、図1の出前注文処理装置は電話機の近くに設置しておく。また、キーボード1での入力をキー入力、バーコードスキャナ2でのバーコードの読み取り入力をスキャンというものとする。

【0025】最初、処理部8は画面に図14の基本メニューを表示させる(図4のステップ101)。電話で顧客Aから出前注文が入ったとき、電話に出た店員aはバーコードシート3の「注文受付」をスキャンする(または、テンキーでメニュー番号1を入力する)。すると、

処理部8は内蔵メモリ(図示せず)に注文受付用のワークエリアを確保し、現在の年月日、受付NO(同日の最初の注文が1とされ、以降、新たな注文受付がされる毎に、自動的にインクリメントされる。ここでは1となる)をワークエリアに一時記憶しながらこれらを元に、注文受付第1画面を表示させ(図15(1)参照)、店員コード入力を待つ(カーソルが店員名の項目に表示される。ステップ102～105)。ここで、店員aが自分の店員コードをスキャンすると、処理部8は店員コード、現在の時刻を一時記憶し、店舗情報ファイルを参照して店員名の表示を行い、顧客コード(=電話番号)の入力を待つ(カーソルが電話番号の項目に移動。ステップ106、107)。

【0026】続いて、顧客Aから電話番号を聞いてテンキー入力すると、処理部8は顧客コードとして一時記憶し、顧客情報ファイルから該当する顧客コードを検索し、対応する顧客名、電話番号、地図データを読み出し、これらの表示を行い、顧客側担当者名の入力または一行完了コードの入力を待つ(カーソルが担当者名の項目に移動。ステップ108、109、111)。若し、顧客Aが企業、官庁等の場合、更に、担当者名を聞いて文字キー入力すると、その一時記憶と表示をし(ステップ110)、「一行完了」をスキャンすると(リターンキーを押してもよい)、カーソルを確認の項目に移動する(図15(2)参照)。このとき、画面には顧客Aの所在地を示す地図も表示されるので、店員aが配達を担当しているとき、場所を確認しておくことができる。

50 そして、「確認」をスキャンすると、行番号を示すiを

1 とし、注文受付第2画面を表示させ（ステップ11
2、図5のステップ201、202、図16（1）参
照）、最初の商品コードの入力待ちとなる（カーソルが
注文受付表の1行目の商品名の項目に移動。ステップ2
03）。

【0027】そして、顧客Aから最初の注文商品と数量
を聞き、例えば、たぬきそば2つの場合、「たぬきそ
ば」をスキャンすると、処理部8は商品コードを一時記
憶するとともに、商品情報ファイルから該当する商品コ
ードを検索し、対応する商品名と価格（＝単価）を読み
出し、更に、数量を1として、これらを第1行目のデータ
として表示し、また、価格と数量を一時記憶する（ス
テップ204）。この際、数量の項目にカーソルを移動
させる。続いて、単価×数量の計算を行って第1行の金
額を求めて表示し、かつ、金額を合計して注文代金を求
め、一時記憶と表示をする（ステップ207）。続い
て、注文数量が2なので「2コ」をスキャンすると（テ
ンキーで2を入力してもよい）、第1行の商品数量と
して2を一時記憶するとともに表示の変更を行い（ス
テップ208、209）、単価を2倍して金額と注文代金を
計算し直して一時記憶と表示をする（カーソルは1行目
の数量の項目のまま。ステップ207）。

【0028】次に、顧客Aから2番目の注文商品がある
か聞き、牛丼1つの場合、まず、「一行完了」をスキャ
ンする（リターンキーを押圧してもよい）。すると、処
理部8はiを2とし（ステップ210、211）、2行
目の商品名の項目にカーソルを移動して商品コード入力
を待つ（ステップ203）。続いて、「牛丼」をスキャ
ンすると、処理部8は2番目の商品コードとして一時記
憶し、商品情報ファイルから該当する商品コードを検索
し、対応する商品名と価格（＝単価）を読み出し、更
に、数量を1として、これらを第2行目のデータとして
表示し、また、価格と数量を一時記憶する（ステップ2
04）。この際、数量の項目にカーソルを移動させる。
続いて、単価×数量の計算を行って第2行の金額を求
めて表示し、かつ、金額を合計して注文代金を求
め、一時記憶と表示をする（ステップ207）。次いで、注文数
量が1なので「一行完了」をスキャンすると、処理部8
はiを3とし（ステップ210、211）、3行目の商
品名の項目にカーソルを移動して商品コード入力を待つ
(ステップ203)。このとき、画面は図16（2）の
状態になる。

【0029】そして、3番目の注文商品があるか聞き、
なければ、注文代金を顧客Aに伝えるなどしたのち、
「注文終了」をスキャンすると、処理部8は今回の注文
に關し、ワークメモリに記憶した種々の情報を第2記憶
装置5に1つの注文管理情報として記憶させる。ここでは、受
付年月日時刻、受付NO（＝1）、受付店員コード、顧客コード、顧客側担当者名（データが存在する場
合）、注文内容（商品コードと数量）、注文代金が記憶

される。この際、調理指示有無情報、配達有無情報、容
器回収有無情報はともに無しを記憶させ、入金総額は零
を記憶させる（ステップ205、206）。そして、画面を注文受付第1画面とし、次の注文受付を可能にする
(図4のステップ104)。このとき、受付NOは2となる。
他の顧客から続けて出前注文が入ったとき、前述
と同様にして受付を行う。注文が無いときは「業務終
了」をスキャンすると、基本メニュー画面に戻る（ス
テップ113、101）。なお、2番目の注文受付をせず
に基本メニューに戻った場合、同日に次に「注文受付」
をスキャンしたときの注文受付第1画面で受付NOが2
となる。

【0030】その後、顧客Bからたぬきそば1、牛丼2
の注文、顧客Cから親子丼1の注文、顧客Dからたぬき
うどん1の注文を受け付けたものとする。

【0031】最初の受付から或る程度時間が経ったと
ころで、店員bが調理場に調理指示を出したいと思
ったとき、基本メニュー画面が表示されている状態で、バーコ
ードシート3の「調理指示」をスキャンする（または、
20 テンキーで2を入力する）。すると、処理部8は内蔵メ
モリに調理指示用のワークエリアを確保し、現在の時刻
を一時記憶しながら所定の調理指示画面を表示させ（図
17（1）参照）、店員コードの入力を待つ（カーソル
が店員名の項目に表示される。図4のステップ102、
103、図6のステップ301、302）。ここで、店
員bが自分の店員コードをスキャンすると、処理部8は
該コードを一時記憶し、店舗情報ファイルを参照して店
員名を表示させる（ステップ303）。そして、注文管
理情報ファイルを参照して、調理指示有無情報が調理指
示無しとなっている全ての注文につき（受付、調理、配
達は同日になされるので、通常は当日分の注文の中から
選ばれる）、注文管理情報をワークエリアに読み出し、
更に、顧客情報ファイルを参照して顧客コードに対応す
る配達エリアデータ、電話番号、顧客名をワークエリア
に読み出し、受付時刻、受付NO、配達エリア（番
号）、顧客名、電話番号を含む調理指示表を作成し表示
させる（注文別に行を変える）。この際、i=1とし、
カーソルを1行目の調理指示の項目に表示させる（ス
テップ304～306、図17（2）参照）。

【0032】この調理指示画面を見て、店員bが配達エ
リアの番号が同じか隣接している注文を探す。ここでは
1行目と3行目が該当するので、「調理」をスキャンして
1行目の注文を選択する。すると、処理部8は1行目の
注文につき調理指示有りを一時記憶するとともに画面
に表示し（ステップ307、308）、iを2としてカ
ーソルを2行目の調理指示の項目に移動させる（ス
テップ309、306）。続いて、「下カーソル」をスキャ
ンすると（下カーソルキーを押圧してもよい）、処理部
8はカーソルを3行目の調理指示の項目に移動させる
50 (ステップ310、309、306)。この状態で、再

び、「調理」をスキャンして3行目の注文を選択すると、処理部8は3行目の注文につき調理指示有りの一時記憶と表示をし(ステップ307、308)、カーソルを4行目の調理指示の項目に移動させる(ステップ309、306)。このとき、画面は図18の状態になる。若し、或る行の注文を間違って選択したとき、「上カーソル」をスキャンしてカーソルを当該行に戻し、「調理取消」をスキャンすればよい(ステップ312、313、306、307、308)。

【0033】今回、調理指示する注文の選択が終了したならば、「調理指示終了」をスキャンする。すると、処理部8は今回調理が指示された全ての注文につき、ワークエリア内の情報及び商品情報ファイルを参照して商品コードに対応する調理部署別に整理し、調理部署別に分けて、年月日、調理部署番号、商品名と数量を表した調理指示書(図23の符号9a、9b参照)をプリント7で1枚ずつ印刷させ、続いて、ワークエリア内の情報及び顧客情報ファイル、店舗情報ファイルを参照しながら、注文別に分けて、年月日、配達エリア、顧客名、顧客側担当者名、住所、顧客電話番号、注文商品名、数量、単価、商品別の金額、注文代金、店舗名、店舗電話番号、及び、顧客の所在地を示す地図を表した会計伝票

(図24の符号10a、10b参照)を2枚ずつ印刷させる(ステップ311、図7のステップ401)。そして、今回調理指示をした注文につき、注文別に調理指示時刻、調理指示店員コード、調理指示有無情報としての調理指示有りを記憶させ(ステップ402)、基本メニュー画面に戻す(図4のステップ101)。

【0034】店員bは調理部署別の調理指示書を該当する調理部署に回し、また、2枚組の会計伝票の内、1枚は控えとし、もう1枚は顧客渡し用とする。1枚の調理指示書には、同一または隣接する配達エリアの関係にある複数の顧客(ここではA、C)から受けた複数の注文の中から選び出された同じ部署において同一または似た調理法で調理可能な全ての商品が表されているので、一括して素早く調理することができる。しかも、注文受付時と調理指示時とで、異なる店員が操作しても、手書きのメモ用紙は使用していないので、誤読等による調理指示ミスが生じることはない。

【0035】更に、各調理部署で商品が出来上がったとき、注文別の会計伝票により、どの顧客にどの商品を配達すれば良いか確認できるので、出前ケースに収納したり車両に乗せたりするときに商品間違いが起きず、会計伝票を持参することで、顧客に引き渡す際の商品間違いも生じない。更に、同一または隣接する配達エリアの顧客に対する商品が同じ時間に出来上がるので、店舗から見てほぼ同じ方向の複数の顧客について一緒に配達することができ、配達に要する時間が短くなる。また、会計伝票に記載された顧客住所、地図を参考にすることで、新人でも間違いなく最適な経路で配達に行くことができる。

き、顧客の場所を探し回って配達が遅れることはない。万一、顧客の場所が判らなくても、会計伝票の住所をもとに第3者に確認したり、顧客に電話を掛けて確認することができる。そして、配達と同時に集金できる場合も会計伝票に記された注文代金などにより金額を間違えなくて済む。

【0036】また、顧客コードを顧客の電話番号と同じにしたので、顧客名と顧客コードを対応させて印刷したコードブックを引いたりする手間が掛からず、顧客住所を会計伝票に印刷するようにしのので、注文受付時に住所を聞かなくても済む。また、調理指示をする店員が配達担当の店員でなくても、調理指示画面の配達エリア情報により、簡単に、同一または隣接する配達エリアの注文を選び出して調理指示を行うことができる。以下、同様の作業を繰り返すことで、出前注文受付、調理指示、配達を手際良く、正確に取り行うことができる。

【0037】その後、先に配達に行った店員bの手が空いたとき、配達登録を行う。まず、基本メニュー画面が表示されている状態で、バーコードシート3の「配達登録」をスキャンする(またはテンキーで3を入力する)。

処理部8は内蔵メモリに配達登録用のワークエリアを確保し、時刻をワークエリアに一時記憶しながら配達登録画面を表示させ(図19参照)、店員コードの入力を待つ(カーソルが店員名の項目に表示される)。図4のステップ102、103、図8のステップ501、502)。ここで、店員bが自分の店員コードをスキャンすると、処理部8は該コードを一時記憶し、店舗情報ファイルを参照して店員名を表示させる(ステップ503)。そして、注文管理情報ファイルを参照して、配達30有無情報が無しとなっている全ての注文につき(通常、当分が選択される)、注文管理情報をワークエリアに読み出し、更に、顧客情報ファイルを参照して顧客コードに対応する配達エリア番号、電話番号、顧客名をワークエリアに読み出し、これらに基づき、受付時刻、受付NO、配達エリア(番号)、顧客名、電話番号、注文代金、入金総額を含む配達登録表を作成し表示させる(注文別に行を変える)。この際、i=1とし、カーソルを1行目の配達の項目に表示させる(ステップ504~506)。

【0038】この配達登録画面を見て、店員bは今日配達に行った注文を探す。1行目と3行目が該当するとき、カーソルが1行目に有る状態で「配達済」をスキャンし、1行目の注文の登録入力をする。すると、処理部8は1行目の注文につき配達有無情報として有りを一時記憶するとともに表示させ、iを2とし、カーソルを2行目の配達の項目に移動させる(ステップ507~509、506)。続いて、「下カーソル」をスキャンすると(下カーソルキーを押してもよい)、処理部8はカーソルを3行目の配達の項目に移動させる(ステップ5

5010、509、506)。この状態で、「配達済」をス

キャンして3行目の注文の登録入力すると、処理部8は3行目の注文につき配達有無情報として有りを一時記憶するとともに表示させ、カーソルを4行目の配達の項目に移動させる(ステップ507～509、506)。このとき画面は図19の状態になる。

【0039】以上の如くして、配達登録入力が終了したならば、「配達登録終了」をスキャンする。すると、処理部8は今回配達登録入力のされた注文につき、注文管理情報ファイルに注文別に、配達登録時刻、配達登録店員コードを記憶させるとともに配達有無情報として配達有りを記憶させ(ステップ511、512)、基本メニュー画面に戻す(図4のステップ101)。このようにして配達登録しておけば、あとで、他の店員等が配達登録画面を呼び出したとき、未配達の注文がどれか判り、注文別の配達の有無を管理することができ、配達忘れを防止することができる。

【0040】続いて、店員bが入金入力をを行いたい場合、バーコードシート3の「入金入力」をスキャンする(またはテンキーで4を入力する)。すると、処理部8は内蔵メモリに入金入力用のワークエリアを確保し、年月日時刻をワークエリアに一時記憶し、入金入力画面を表示させ(図20参照)、店員コードの入力を待つ(カーソルが店員名の項目に表示される。図4のステップ102、103、図9のステップ601、602)。ここで、店員bが自分の店員コードをスキャンすると、処理部8は該コードを一時記憶し、店舗情報ファイルを参照して店員名を表示させる(ステップ603)。そして、注文管理情報ファイルを参照して、入金総額が注文代金と一致していない全ての注文につき(ここでは当日分のほか前日分など他の日付けの注文も選択されることがある)、注文管理情報をワークエリアに読み出し、更に、顧客情報ファイルを参照して顧客コードに対応する配達エリアデータ、電話番号、顧客名をワークエリアに読み出し、これらを用いて受付月日、注文NO、配達エリア(番号)、顧客名、電話番号、注文代金、入金総額を含む入金入力表を作成し表示させる(注文別に行を変える)。この際、i=1とし、カーソルを1行目の入金額の項目に表示させる(ステップ604～606)。

【0041】この入金入力画面を見て、店員bは今日入金があった注文を探す。ここでは1行目と3行目が該当するので、顧客Aから注文代金を全額入金したときは、「全額入金」をスキャンして1行目の注文につき全額入金したことを入力する。処理部8は1行目の注文につき全額入金があったとして入金総額、入金額とも注文代金と同じ金額を一時記憶するとともに表示させ、iを2とし、カーソルを2行目の入金額の項目に移動させる(ステップ607～609、606)。若し、間違えて全額入金したときは、「上カーソル」をスキャンしてカーソルを1行目に戻したのち(ステップ611、612、606)、「入金取消」をスキャンする。すると、処理

部8は1行目の注文につき入金額をクリアし、入金総額から入金額を引いて元に戻す(ステップ607、608)。ここでは、1行目の注文につき全額入金処理したものとする。続いて、カーソルが2行目に在る状態で「下カーソル」をスキャンすると(下カーソルキーを押すてもよい)、処理部8はカーソルを3行目の入金額の項目に移動させる(ステップ610、609、606)。ここで、顧客Cからは注文代金の一部だけ入金したとき、「一部入金」をスキャンする。すると、処理部8はテンキーによる金額入力を待ち(図10のステップ701、702)、店員bが入力した金額を今回の入金額として一時記憶するとともに表示する(ステップ703)。入金額表示が正しければ、「確認」をスキャンする。すると、処理部8は今回の入金額をそれまでの入金総額と合計して新たな入金総額として一時記憶するとともに表示する(ステップ704、705)。そして、カーソルを第4行目に移動する(ステップ706、図9のステップ606)。このとき画面は図20の状態になる。

【0042】若し、入金額の或る桁を間違えていたときは、「確認」の代わりに「入金取消」をスキャンする。すると、処理部8は今回の入金額をクリアし(ステップ707、708)、ステップ702に戻るので、再度、テンキーで金額を入力すればよい。

【0043】このようにして、今回の入金入力が完了したならば、「入金終了」をスキャンする。すると、処理部8は今回入金入力した各注文につき、注文別に、入金総額、今回の入金入力年月日時刻と入金入力店員コードを記憶させ(ステップ709、710)、基本メニュー画面に戻す(図4のステップ101)。このようにして入金入力しておけば、あとで、他の店員等が入金入力画面を呼び出したとき、未集金の注文がどれか判り、注文別の集金状況を管理することができ、集金忘れを防止することができる。

【0044】その後、店員cが顧客AとCについて容器の回収をしてきたので、登録したい場合、基本メニュー画面が表示されている状態で、バーコードシート3の「容器回収登録」をスキャンする(またはテンキーで5を入力する)。すると、処理部8は内蔵メモリに容器回収登録用のワークエリアを確保し、年月日時刻を一時記憶しながら容器回収登録画面を表示させ(図21参照)、店員コードの入力を待つ(カーソルが店員名の項目に表示される。図4のステップ102、103、図11のステップ801、802)。ここで、店員cが自分の店員コードをスキャンすると、処理部8は該コードをワークエリアに一時記憶し、店舗情報ファイルを参照して店員名を表示させる(ステップ803)。そして、注文管理情報ファイルを参照して、容器回収有無情報が無しとなっている全ての注文につき(ここでも当日分のほか前日分等他の日付けの注文が選択されることがある)

る)、注文管理情報をワークエリアに読み出し、更に、顧客情報ファイルを参照して顧客コードに対応する配達エリアデータ、電話番号、顧客名をワークエリアに読み出し、これらの中から受付月日、注文NO、配達エリア(番号)、顧客名、電話番号、注文代金、入金総額を含む容器回収登録表を作成し表示する(注文別に行を換える)。この際、カーソルを1行目の容器の項目に表示させる(ステップ804~806)。

【0045】この画面を見て、店員cが容器を回収した注文を探す。ここでは1行目と3行目が該当するので、「容器回収済」をスキャンして1行目の注文の登録入力をする。処理部8は1行目の注文につき容器回収有無情報として有りを一時記憶するとともに表示させ(ステップ807、808)、カーソルを2行目の容器の項目に移動させる(ステップ809、806)。続いて、「下カーソル」をスキャンすると(下カーソルキーを押してもよい)、処理部8はカーソルを3行目の容器の項目に移動させる(ステップ810、809、806)。この状態で、「容器回収済」をスキャンして3行目の注文の登録入力をすると、処理部8は3行目の注文につき容器回収有無情報として有りを一時記憶するとともに表示させ、カーソルを4行目の容器の項目に移動させる(ステップ807~809、806)。このとき、画面は図21の状態になる。

【0046】このようにして容器回収登録が終了したならば、「容器回収登録終了」をスキャンする。すると、処理部8は今回、容器回収の登録入力をした注文につき、注文別に、注文管理情報ファイルに容器回収登録年月日時刻、容器回収店員コードを記憶させるとともに容器回収有無情報として有りを記憶させ(ステップ811、812)、基本メニュー画面に戻す(図4のステップ101)。このようにして容器回収登録しておけば、あとで、他の店員等が容器回収登録画面を呼び出したとき、未回収の注文がどれか判り、注文別の容器回収状況を管理することができ、容器回収忘れを防止することができる。

【0047】このほか、例えば顧客Aに対し配達、集金、容器回収等を行う店員が新人で、地理に不案内なため所在地が判らないとき、他の店員に所在地を教えてもらわなくても、会計伝票とは別に顧客Aの地図を印刷し、所在地の確認をすることができる。即ち、基本メニューが表示された状態で、或る店員がバーコードシート3の「地図印刷指示」をスキャンすると(テンキーで6を入力してもよい)、処理部8は地図印刷指示画面を表示したあとテンキーでの顧客コードの入力を待つ(図4のステップ102、103、図12のステップ1001、1002、図22(1)参照)。この際、電話番号の項目にカーソル表示がなされる。そして、予め、注文受付画面、入金入力画面、容器回収画面等で確認しておいた顧客Aの電話番号を顧客コードとしてテンキー入力すると、処

理部8は顧客情報ファイルから入力コードに対応した顧客名、電話番号、住所、地図データを内蔵メモリに確保したワークエリアに読み出し、これらに基づき、画面に電話番号、顧客名、住所、地図を表示する(ステップ1003、図22(2)参照)。この際、カーソルを確認の項目に表示させる。

【0048】店員は画面の地図を見て所望顧客Aの地図を確認することができる。若し、顧客コードを間違って入力したとき、「顧客再入力」コードをスキャンする。

10 すると、処理部8は電話番号等を消去して、顧客コードの再入力を待ち(ステップ1005、1002)、顧客コードが再入力されたならば、処理部8は顧客情報ファイルから新たな入力コードに対応した顧客名、電話番号、住所、地図データをワークエリアに読み出し、これらに基づき、画面に電話番号、顧客名、住所、地図を表示する(ステップ1003)。画面の表示が所望顧客のものとなれば、「確認」コードをスキャンする。すると、処理部8はワークエリアに記憶されたデータを用いて、年月日、顧客名、住所、電話番号、地図を含む地図シート12を発行する(ステップ1006、図25参照)。このあと、基本メニュー画面に戻る(図4のステップ101)。店員は地図シート11を持参することで、初めて配達、集金等をする顧客Aであっても、間違いなく短時間で尋ねることができる。万一、所在地が判らなくても、住所、電話番号の記載から第3者に尋ねたり、電話で直接確認することで、速やかに到達できる。

【0049】なお、入金入力は配達登録または容器回収登録と一緒にできる場合が多いので、図8のステップ512の処理をしたあと直ちに基本メニュー画面に戻るのではなく、「業務終了」コードまたは「入金入力」コードの入力を待ち、前者の入力があったときは基本メニュー画面に戻り、後者の入力があったときは図9のステップ601に進むようにし、同様に、図11のステップ812の処理をしたあと直ちに基本メニュー画面に戻るのではなく、「業務終了」コードまたは「入金入力」コードの入力を待ち、前者の入力があったときは基本メニュー画面に戻り、後者の入力があったときは図9のステップ601に進むようにしてもよい。

【0050】また、図6のステップ304において、調理指示画面の調理指示表に表示する注文は、調理指示有無情報が無しとなっているものだけでなく、当日受け付けた注文全てとし、既に調理指示有無情報が有りとなっている注文については、調理指示の項目に有を予め表示させておくようにしても良い。同様に、図8のステップ504において、配達登録画面の配達登録表に表示する注文は、配達有無情報が無しとなっているものだけでなく、当日受け付けた注文全てとし、既に配達有無情報が有りとなっている注文については、配達の項目に有を予め表示させておくようにしても良い。

50 【0051】また、図9のステップ604において、入

金入力画面の入金登録表に表示する注文は、入金総額が注文代金と一致しているものも含めて或る期間内（例えば、3日や1週間）の全ての注文としても良く、同様に、図11のステップ804において、容器回収登録画面の容器回収登録表に表示する注文も、容器回収有無情報が無しとなっているものだけでなく、或る期間内に受け付けた注文全てとし、既に容器回収有無情報が有りとなっている注文については、容器の項目に有を予め表示させておくようにしても良い。

【0052】この実施例によれば、会計伝票に顧客の所在地を表す地図が印刷されること、また、会計伝票とは別に任意顧客の地図、住所、電話番号等を印刷した地図シートを発行させることができるので、新人の店員が配達、集金、容器回収などをする場合、他の店員に顧客所在地を聞かなくても会計伝票、地図シートの地図を参考にすることで、間違いなく、短時間で所望顧客への配達、集金等を済ますことができる。万一、顧客所在地が判らなくても、住所、電話番号の記載から第3者に尋ねたり、電話で直接確認することで、速やかに配達等を行うことができ、この際、注文受付時に顧客から住所を聞いておく必要もない。この点、従来は新人が配達、集金等を行う場合、一々、他の店員に配達先の所在地を聞かなければならず、煩わしく非能率であり、また、聞いた場所を探しながら行くため時間が掛かり、聞き間違えにより配達、集金等をできない場合もあった。

【0053】また、同一または隣接する配達エリアに係る複数の出前注文につき、顧客がどの配達エリアに属するかを店員が知らなくても、会計伝票または画面（配達指示画面）に示された配達エリアを見ながら一括して調理場に調理の指示をすることができ、調理指示した店員とは異なる店員が配達する場合であっても、複数のほぼ同じ方向の顧客に対し一度に配達することができ、配達を短時間で済ますことができる。この点も従来は、配達担当でない店員が調理指示するとき、受付順に行っていたので、配達方向の全く異なる顧客について一度に調理が完了することができ、配達に多大の時間を要するとともに、2番目以降に届けられた顧客では、メン類が既に延びていたり、商品が冷めてしまっていて、苦情を言われることがあった。

【0054】また、商品、数量、店員等のデータ入力は勿論のこと、メニュー選択、カーソル操作、確認、取消、終了等の各種コマンド入力をバーコードのスキャンで行えるため、キーボード操作を苦手とする店員であっても、簡単に、注文受付、調理指示、配達登録、入金入力、容器回収登録、地図印刷指示等の各種業務処理をこなすことができる。更に、注文管理情報ファイルに登録された注文別の各種注文管理情報を用いることで、各種集計処理が可能となり、集計結果を表示させたり、印刷させたりすることができる。例えば、調理未指示注文の有無、未配達注文の有無、未入金注文の有無、容器未回

18
収注文の有無等を管理したり、1日単位、周単位、月単位での注文総数、注文内容、集金額等の集計が可能であり、更に、これらのデータを荒利の計算に利用することもできる。また、店員別の注文受付件数、調理指示件数、配達件数、集金額、容器回収件数の管理も可能である。

【0055】なお、上記した実施例では顧客コードを電話番号と同一にしたが、電話番号の先頭に特定数値を加えるなどしたコードとしたり、電話番号とは全く別個に定義したコードとしてもよい。後者の場合、顧客名と顧客コードを対応させたコードシートを用意すれば良い。また、顧客を特定するために入力するデータは顧客コードでなく顧客名または住所とし、電話注文を受けた店員が顧客名または住所を聞き、キーボード1で文字入力するようにもよい。また、注文管理情報ファイルに記憶する各注文別の顧客特定情報を顧客コードとしたが、顧客名や略符号としても良く、更に、各種画面に表示する顧客特定情報や会計伝票、地図シートに印刷する顧客特定情報を、顧客コードや略符号としても良く、これらは入力データそのものであっても、入力データに基づき顧客情報ファイルから検索したデータであっても良い。

【0056】更に、商品を特定するために入力するデータ商品コードでなく商品名とし、電話注文を受けた店員が商品名を聞き、キーボード1で文字入力するようにもよい。また、注文管理情報ファイルに記憶する各注文別の商品特定情報を商品コードとしたが、商品名や略符号としても良く、更に、各種画面に表示する商品特定情報や調理指示書、会計伝票に印刷する商品特定情報を、商品コードや略符号としても良く、これらは入力データそのものであっても、入力データに基づき商品情報ファイルから検索したデータであっても良い。

【0057】また、基本メニューに「地図無調理指示」を加えておき、該メニューを選択して地図無し調理指示がなされたときは、前述した「調理指示」が選択されたときと同様の処理を行い（図4のステップ102、103、図6、図7のフロー）、但し、最後に注文別の会計伝票を印刷する際（図7のステップ401）、地図を印刷しないようにし、店員に新人が居ない場合などに印刷時間の短縮、印刷用紙、インクリボン、熱転写リボン等の節約を図るようにもよい（図26の符号10c参照）。また、「調理指示」が選択されたときは、会計伝票に地図を印刷しないようにし、基本メニューに加えた「地図付調理指示」が選択されたときだけ会計伝票に地図を印刷するようにもよい。更に、事前にキーボード1等で店員が地図付モードと地図無しモードを指定できるようにしておき、「調理指示」メニューの実行で会計伝票を印刷する際、事前に地図付モードが指定されているときは地図付で印刷し、地図無しモードが指定されているときは地図無しで印刷するようにもよい。

【0058】また、調理を指示する注文が選択されたあ

と、処理部8は今回調理指示した調理指示書と会計伝票を自動的に印刷するようにしたが、調理指示する注文を選択後、「調理指示書・会計伝票印刷」コードのスキャン等で調理指示書と会計伝票の両方の印刷が指示されたときは今回調理指示された各注文内容を部署別に分けた調理指示書と注文別の会計伝票を印刷するが、「調理指示書印刷」コードのスキャン等で調理指示書の印刷が指示されたときは今回調理指示された各注文内容を部署別に分けた調理指示書だけを印刷させ、「会計伝票印刷」コードのスキャン等で会計伝票の印刷が指示されたときは今回調理指示された各注文内容を注文別の会計伝票だけを印刷するようにしてもよい。これにより、調理指示書または会計伝票の一方を印刷させることができ、印刷用紙が不足してきたときの節約等の便宜を図ることができる。この際、会計伝票の印刷に関しては地図付と地図無しにメニューを分け、地図付が選択された場合だけ会計伝票に地図を印刷するようにし、地図無しが選択された場合は、地図抜きの会計伝票を印刷するようになり、キーボード1等で、地図付モードと地図無しモードを事前に指定できるようにしておき、会計伝票を印刷する際、事前に地図付モードであれば、地図も一緒に印刷し、地図無しモードであれば、地図抜きで印刷するようにしてもよい。

【0059】また、上記した実施例では店員が調理を指示する注文を選択しないと、調理指示書や会計伝票が発行されないが、店員が調理指示操作をしなくても所定時点毎に自動的に発行されるようにしてもよい。この場合の処理部8の動作を図27を参照して説明する。画面に基本メニューが表示されている状態で(ステップ101)、処理部8はメニュー選択がされたか、前回自動若しくは店員の操作による調理指示処理をしてから一定時間経過したか、注文管理情報ファイルに調理指示有無情報が無しとなっている注文が一定数たまつたかチェックする(ステップ102、1101、1108)。ステップ1101でYESとなったとき、注文管理情報ファイルに調理指示有無情報が無しとなっている注文が1以上あるかチェックし、なければステップ102に戻り、有れば、統いて、内蔵メモリに調理指示用のワークエリアを確保し、現在の時刻を該ワークエリアに一時記憶し、また、注文管理情報ファイルから調理指示有無情報が無しとなっている全ての注文に係る注文管理情報を読み出してワークエリアに一時記憶する(ステップ103)。

【0060】そして、調理未指示の注文の中に、同一または隣接する配達エリアとなっている複数の注文があるが探し(ステップ1104)、あるときは、それらの注文につき調理指示有無情報として有りを一時記憶させたのち(ステップ1105)、今回調理指示有無情報を有りとさせた全ての注文につき注文内容を部署別に分けた調理指示書(各1枚)と注文別の地図付の会計伝票(各2枚)を印刷させる(ステップ1106)。そして、今回の調理指示

に関する各種情報を注文管理情報ファイルに登録し(ステップ1107)、ステップ102に戻る。

【0061】若し、ステップ1104でNOであったとき、受付時刻の最も古い注文につき、調理指示有無情報として有りを一時記憶させたのち(ステップ1105)、今回調理指示有無情報を有りとさせた注文につき注文内容を部署別に分けた調理指示書(各1枚)と会計伝票(各2枚)を印刷させる(ステップ1106)。そして、今回の調理指示に関する各種情報を注文管理情報ファイルに登録

10 し(ステップ1107)、ステップ102に戻る。また、ステップ1108でYESとなったときはそのままステップ1103へ進み、前述と同様の処理を行う。このようにすることで、店員が特に調理指示操作をしなかった場合でも、それまでに受付済であるが調理指示はまだの注文の中から、同一または隣接した配達エリアとなっている複数の注文につき、注文内容を部署別に分けた調理指示書と注文別で地図付の会計伝票を自動的に発行せることができる。なお、この自動調理指示処理においても、店員が予めキーボード1等で地図付モードと地図無しモードを指定できるようにし、ステップ1106で会計伝票を印刷する際、事前に地図付モードが指定されていたときは地図も一緒に印刷し、地図無しモードが指定されていたときは、地図抜きで印刷するようにしてもよい。

【0062】また、会計伝票にミシン目を入れておき(図24の符号11参照)、顧客に渡す前に地図の部分を切り離せるようにしてもよい。

【0063】また、調理指示操作が完了したあと発行される調理指示書は各調理部署別に1枚ずつ印刷するようになしたが、1枚の中に各部署に分けて商品と数量を印刷した調理指示書を部署の数に相当する枚数分印刷してもよい。更に、プリンタ7を各調理部署にも設置しておき、当該調理部署宛の調理指示書は当該部署に置かれたプリンタ7で印刷するようにすれば、調理指示書を配付する手間が省ける。この場合、プリンタ7と処理部8との間のデータ及び制御信号の授受を無線で行うようにし、ケーブルの引き回しを避けるようにしてもよい。また、調理場が特に部署別に分かれていないときなど、必ずしも調理指示書を部署別に分けて印刷しなくともよく、図28の符号9cに示す如く、1枚の調理指示書に

30 40 今回調理が指示された全ての注文の全ての商品名と数量を印刷するようにしてもよい。更に、調理場が部署別に分かれていないときなど、調理指示書の印刷を省略し、会計伝票だけ印刷し、該会計伝票を調理場に回して調理指示を行い、調理完了後、回収して控え、配達等に利用するようにしてもよい。

【0064】また、各調理部署に調理完了を店員に知らせるための操作装置を備え、店舗所定箇所に設置したブザー、ランプ等で調理完了を店員に知らせるようにしてもよく、更に、各調理部署毎に処理部8と接続された表示装置を設置し、調理指示書や会計伝票を印刷する際、

21

部署別の調理指示内容を各表示装置に表示させるようにしてもよい。

【0065】また、会計伝票は注文別に2枚ずつ印刷するようにしたが、1枚ずつとしてもよく、更に、図29の符号10dに示す如く、1枚の中に各注文に分けて顧客名、配達エリア、顧客住所、顧客電話番号、商品、数量、商品別の金額、注文代金、地図等を印刷した伝票を1枚または2枚だけ印刷するようにしてもよい。この場合、伝票は顧客に渡さず、店側で調理指示や控えとして利用したり、配達時に携帯して配達間違の防止に用いる。

【0066】また、調理部署別に分けた調理指示をしない場合、以下のようにしてもよい。即ち、注文受付メニューを第1と第2の2つに分け、第1注文受付メニューが選択されたときは処理部8は図4、図5と全く同じ処理を行うようにし、別途調理指示操作をしたとき初めて調理指示書と会計伝票が印刷されるようにし、第2注文受付メニューが選択されたときは図4、図5とほぼ同じ処理を行うが、図5のステップ205と206の間で、今回受付た注文につき調理指示有無情報として有りをワークエリアに一時記憶するとともに、今回受け付けた注文につき、顧客名、配達エリア、顧客住所、顧客電話番号、商品、数量、商品別の金額、注文代金、地図等を含む会計伝票を印刷させるようにする。そして、会計伝票がある程度たまつた時点で店員が各会計伝票に記された配達エリアを見て、同一または隣接する配達エリアとなっている複数の注文についての会計伝票を調理場に回して、一括して調理させるようにしてもよい。なお、新たに第3注文受付メニューを用意し、該メニューが選択されたとき、第2注文受付メニューとほぼ同様の処理を行い、会計伝票を印刷させる際、今回の注文内容を調理部署別に分けた調理指示書も印刷せるようにしてもよい。このようにすれば、時間帯や季節等で出前注文が少なく、特に、配達エリアを考慮しなくて良い場合に、会計伝票とは別に印刷した調理指示書で部署別に調理指示を行うことができる。

【0067】これら第2注文受付メニュー、第3注文受付メニューについても、各々地図付と地図無しにメニューを分け、地図付メニューが選択されたときだけ会計伝票に地図を印刷するようにしたり、或いは、予め、キーボード1等で店員が地図付モードと地図無しモードを指定できるようにし、第2注文受付メニューや第3注文受付メニューの処理を実行する際、事前に店員が地図付モードを指定していた場合に限り、会計伝票に地図印刷するようにし、事前に店員が地図無しモードを指定していた場合、地図抜きで印刷するようにしてもよい。

【0068】また、調理指示メニューも第1と第2の2つに分け、第1調理指示メニューが選択されたときは処理部8は図6、図7と全く同じ処理を行うようにし、第2調理指示メニューが選択されたときは、それまでに注

22

文受付が終わっているが、まだ調理未指示となっている全ての注文につき、注文管理情報をワークエリアに読み出し、それらの注文につき自動的に調理指示有無情報として有りをワークエリアに一時記憶するとともに、注文別に、顧客名、配達エリア、顧客住所、顧客電話番号、商品、数量、商品別の金額、注文代金、地図等を含む会計伝票を印刷させ、今回調理指示有無情報を有りとした注文につき各種情報を注文管理情報ファイルに登録するようにする。そして、基本メニュー画面に戻る。店員は各会計伝票に記された配達エリアを見て、同一または隣接する配達エリアとなっている複数の注文についての会計伝票を調理場に回して、一括して調理させるようにしてもよい。なお、新たに第3調理指示メニューを用意し、該メニューが選択されたとき、第2調理指示メニューとほぼ同様の処理を行い、会計伝票を印刷させる際、今回、新たに調理指示有無情報が有りとされた全ての注文の注文内容を調理部署別に分けた調理指示書も印刷されるようにしてもよい。このようにすれば、時間帯や季節等で出前注文が少なく、特に、配達エリアを考慮しなくて良い場合に、会計伝票とは別に印刷した調理指示書で部署別に調理指示を行うことができる。

【0069】これら第1調理指示メニュー～第3調理指示メニューについても、各々地図付と地図無しにメニューを分け、地図付メニューが選択されたときだけ会計伝票に地図を印刷するようにしたり、或いは、予め、キーボード1等で店員が地図付モードと地図無しモードを指定できるようにし、第2調理指示メニューや第3調理指示メニューの処理を実行する際、事前に店員が地図付モードを指定していた場合に限り、会計伝票に地図印刷するようにし、事前に店員が地図無しモードを指定していた場合、地図抜きで印刷するようにしてもよい。

【0070】

【発明の効果】本発明によれば、予め顧客情報記憶手段に顧客別に、顧客特定情報と対応付けて顧客所在地を表した地図データを記憶させておき、出前注文受付時に入力手段で入力での入力内容に基づき顧客特定情報、商品特定情報及び数量を注文別に注文管理情報記憶手段に記憶したあと、自動若しくはユーザによる指示を受けて、印刷処理手段が注文別に分けた顧客特定情報、商品特定情報及び数量、地図を含む伝票を印刷手段に印刷せるように構成したから、メモ用紙を用いずに出前注文の受付、伝票の発行ができるので、注文受付時と調理依頼時とで店員が変わっても、伝票を調理場に回すことで正確な調理依頼を出せる。また、伝票に顧客所在地を表す地図が印刷されていることから、該地図を参考にして配達することで、地理に不案内な新人の店員であっても、間違いなく短時間で配達を済ますことができる。

【0071】また、顧客情報記憶手段に、顧客別の配達エリアを記憶しておき、伝票を印刷せる際、配達エリアも印刷せるように構成したから、或る時間幅で受け

付けた複数の注文についての伝票印刷後、伝票に記された配達エリアが同一か隣接する注文をまとめて調理依頼すれば、調理完了後、複数の出前先に短時間で配達することができる。しかも、複数の注文につき一度に調理が完了しても、伝票で注文別の商品と数量を確認すれば、出前ケースに収納したり、車両に乗せる際に、商品間違いが起きず、更に、伝票を持参していくことで、顧客に渡す商品間違いも無くなる。

【0072】また、出前注文受付時、入力手段での入力内容に基づき顧客特定情報、商品特定情報及び数量、調理指示無しとした調理指示有無情報を対応付けて注文別に注文管理情報記憶手段に記憶しておき、調理指示時、調理指示有無情報が調理指示無しとなっている各注文別の少なくとも配達エリア、または当日受け付けた各注文別の少なくとも調理指示有無情報と配達エリアを含む調理指示画面を表示し、入力手段で調理を指示する注文の選択がなされたとき、当該注文につき調理指示有無情報を調理指示有りとして注文管理情報記憶手段に記憶するとともに、自動若しくはユーザの指示を受けて、各記憶手段に記憶された情報を参照しながら、今回、調理が指示された全ての注文につき、注文別に分けて顧客特定情報、商品特定情報及び数量、地図を含む伝票を印刷するように構成したから、メモ用紙を用いずに出前注文の受付、伝票の発行ができるので、注文受付時と調理依頼時とで店員が変わっても、伝票を調理場に回すことで正確な調理指示を出せる。また、調理指示操作をする際、画面に調理未指示の各注文別の配達エリアが表示されるので、配達エリアが同一または隣接する複数の注文について簡単に一括した調理指示を行うことができるとともに、出来上がり後は複数の出前先に短時間で配達することができる。更に、複数の注文につき一度で配達する場合、伝票により、出前ケースに収納したり、車両に乗せる際、商品間違いが起きず、伝票を持参していくことで、新人であっても顧客所在地が簡単に判り、速やかに所望顧客への配達をすることができ、この際、顧客に渡す商品間違いも起きない。

【0073】また、所定時点毎に自動的に、それまでに受付済の注文であって調理未指示の注文の中で、同一または隣接する配達エリアとなっている複数の注文につき一括して、注文別に分けながら顧客特定情報、商品特定情報及び数量、地図を含む伝票を印刷するように構成したから、それまでに受付済の注文に対し、所定時点毎に自動的に、同一または隣接する配達エリアとなっている複数の注文につき一括して、注文別に分けながら顧客特定情報、商品特定情報及び数量、地図を含む伝票が印刷されるので、ユーザが調理指示操作をする手間が省ける。

【0074】また、顧客情報記憶手段に、顧客別の住所または電話番号を記憶しておき、伝票を印刷する際、顧客の住所または電話番号も印刷するように構成したか

ら、地図だけでは顧客所在地が良く判らなかった場合、伝票の住所をもとに第3者に聞いて確認したり、顧客に電話を掛けて直接確認することができ、配達時の利便性が向上する。

【0075】また、ユーザにより地図無しが指示されたとき、地図無しの伝票を印刷するように構成したから、印刷手段がインクリボン式、熱転着式の場合に消耗を軽減したり、用紙の節約をしたり、地図無し伝票の顧客への引き渡しが可能となる。

10 【0076】また、入力手段で任意顧客の地図印刷が指示されたとき、該指示された顧客の地図を印刷するように構成したから、伝票発行とは別に所望顧客の地図を任意に発行でき、当該印刷した地図を持参することで、新人でも道を間違えることなく短時間で配達を済ますことができる。この場合、地図とともに住所または電話番号も印刷することで、地図だけでは顧客所在地が良く判らなかった場合、伝票の住所をもとに第3者に確認したり、顧客に電話を掛けて確認することができ、配達時の利便性が向上する。

20 【0077】また、伝票は地図を含ませずに印刷し、入力手段で任意顧客の地図印刷が指示されたとき、伝票とは別に該指示された顧客の地図を印刷するように構成したから、配達の便宜を図ることができる。

【0078】また、印刷処理手段は、今回伝票を印刷した全ての注文の商品特定情報及び数量を表した調理指示書を伝票とは別に印刷するように構成したから、注文別の伝票とは別に調理が指示された全ての注文の商品特定情報及び数量をまとめた調理指示書を印刷するので、調理場には調理指示書を回して調理指示すれば、調理完了後、調理指示書を配達店員が回収しなくても伝票により、調理済商品がどの顧客に対するものか確認することができる。また、伝票だけ印刷し、伝票を調理場に回して調理指示したとき、調理完了後、伝票を配達店員が回収する必要があるが、このとき、回収した伝票と調理指示前の伝票を区別しないと、再度、調理指示してしまうミスを犯す恐れがあるが、伝票と調理指示書を分けたことで、上記ミスの発生を防止できる。

【0079】また、商品情報記憶手段に商品別の調理部署情報を記憶させておき、印刷処理手段は調理指示書を印刷する際、調理部署別に分けて商品特定情報及び数量を印刷するように構成したから、調理部署が類似商品群毎に分かれている、各調理部署に確実に調理指示を出すことができ、また、各調理部署では複数の注文にわたる同一または類似の注文商品を一緒に調理できるので、調理を迅速に進めることができる。

【0080】また、調理部署毎に印刷手段を設置しておき、当該調理部署に対する調理指示書は当該調理部署に設置された印刷手段で印刷するように構成したから、各調理部署に調理指示書を配る手間が省ける。

50 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例に係る出前注文処理装置の全体構成図である。

【図2】配達エリアの説明図である。

【図3】調理部署の説明図である。

【図4】処理部の動作を示す第1の流れ図である。

【図5】処理部の動作を示す第2の流れ図である。

【図6】処理部の動作を示す第3の流れ図である。

【図7】処理部の動作を示す第4の流れ図である。

【図8】処理部の動作を示す第5の流れ図である。

【図9】処理部の動作を示す第6の流れ図である。

【図10】処理部の動作を示す第7の流れ図である。

【図11】処理部の動作を示す第8の流れ図である。

【図12】処理部の動作を示す第9の流れ図である。

【図13】バーコードシートの説明図である。

【図14】画面表示例の説明図である。

【図15】画面表示例の説明図である。

【図16】画面表示例の説明図である。

【図17】画面表示例の説明図である。

【図18】画面表示例の説明図である。

【図19】画面表示例の説明図である。

【図20】画面表示例の説明図である。

【図21】画面表示例の説明図である。

【図22】画面表示例の説明図である。

【図23】調理指示書の説明図である。

【図24】会計伝票の説明図である。

【図25】地図シートの説明図である。

【図26】会計伝票の変形例を示す説明図である。

【図27】本発明の変形例に係る処理部の動作を示す流れ図である。

10 【図28】調理指示書の変形例の説明図である。

【図29】会計伝票の他の変形例の説明図である。

【符号の説明】

1 キーボード

2 バーコードスキャナ

3 バーコードシート

4 第1記憶装置

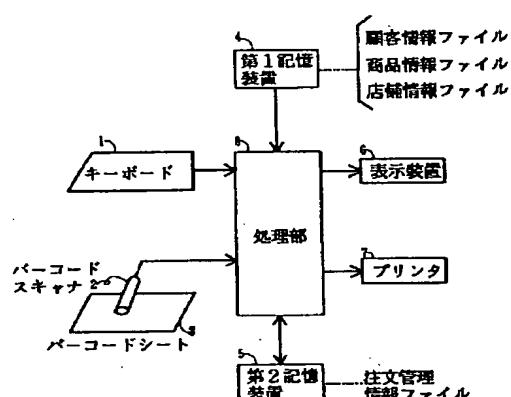
5 第2記憶装置

6 表示装置

7 プリンタ

20 8 処理部

【図1】

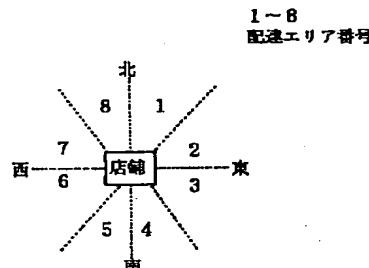


【図18】

93-10-12 調理指示 店員名〇〇〇〇

時間	No	エリア	顧客名	電話	調理指示
AM11:30	1	1	〇〇〇会社	23-0034	有
AM11:35	2	5	〇〇〇〇	××××	
AM11:39	3	1	〇〇〇〇	××××	有
AM11:44	4	4	〇〇〇〇	××××	

【図2】



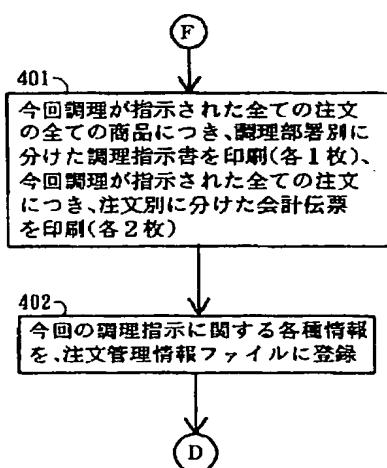
【図3】

1~3 調理部番号		
1 そば類	2 うどん類	3 麺類

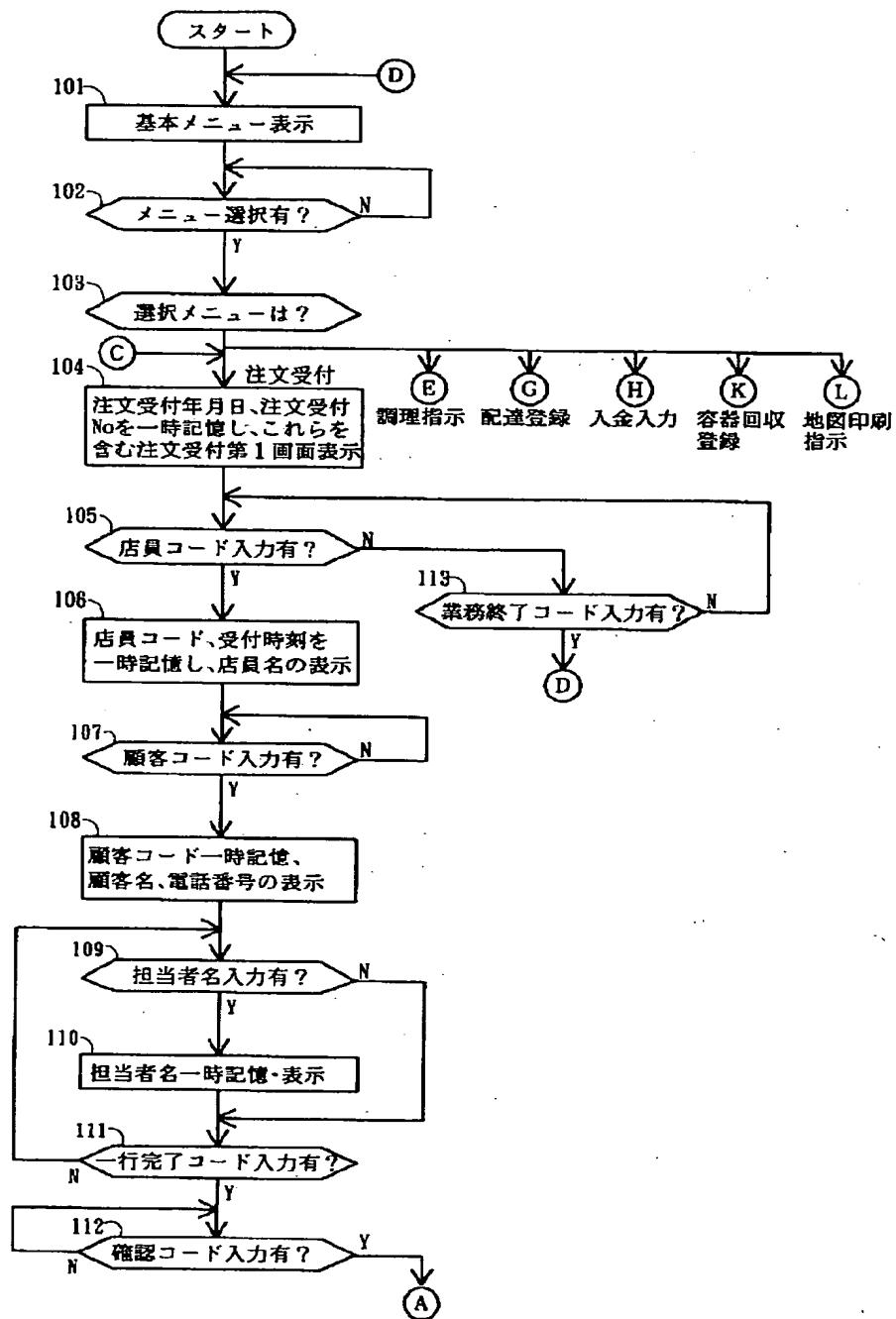
【図14】

1. 注文受付
2. 調理指示
3. 配達登録
4. 入金入力
5. 春器回収登録
6. 地図印刷指示

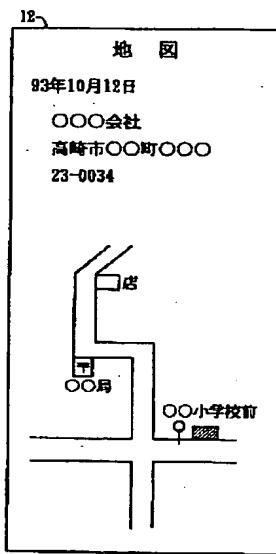
【図7】



【図4】



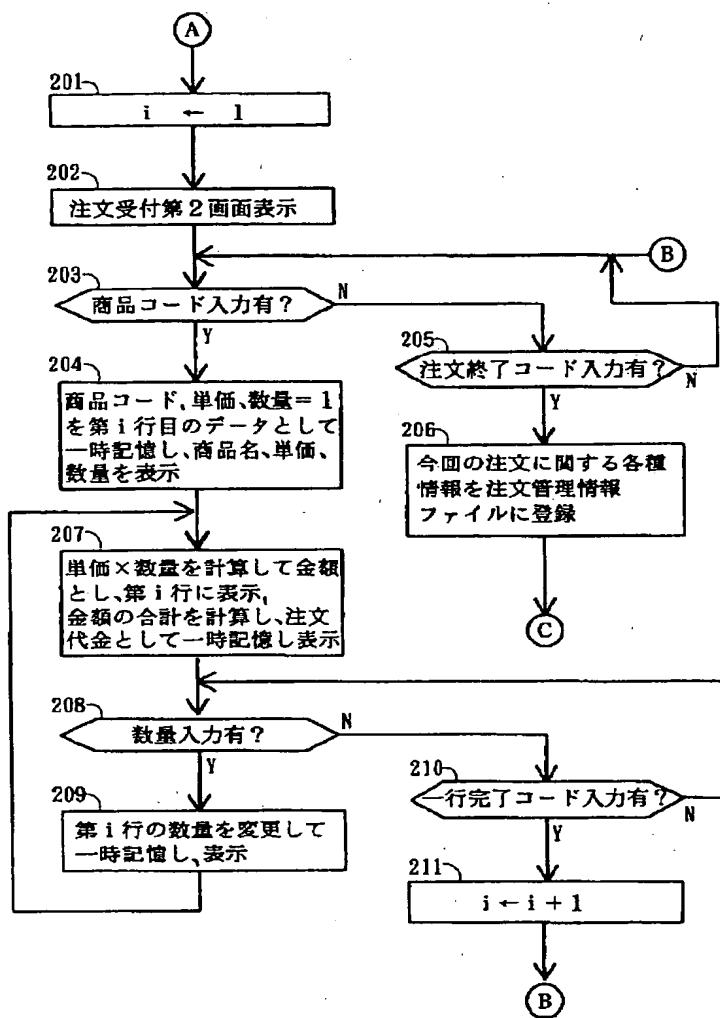
【図25】



【図26】



【図5】



【図16】

(1)

93-10-12 注文受付 顧客名 〇〇〇会社

商品名	数量	単価	金額
注文代金			

(2)

93-10-12 注文受付 顧客名 〇〇〇会社

商品名	数量	単価	金額
たぬきそば	2	650	1300
牛丼	1	500	500
注文代金			1800

【図17】

(1)

93-10-12 調理指示 店員名

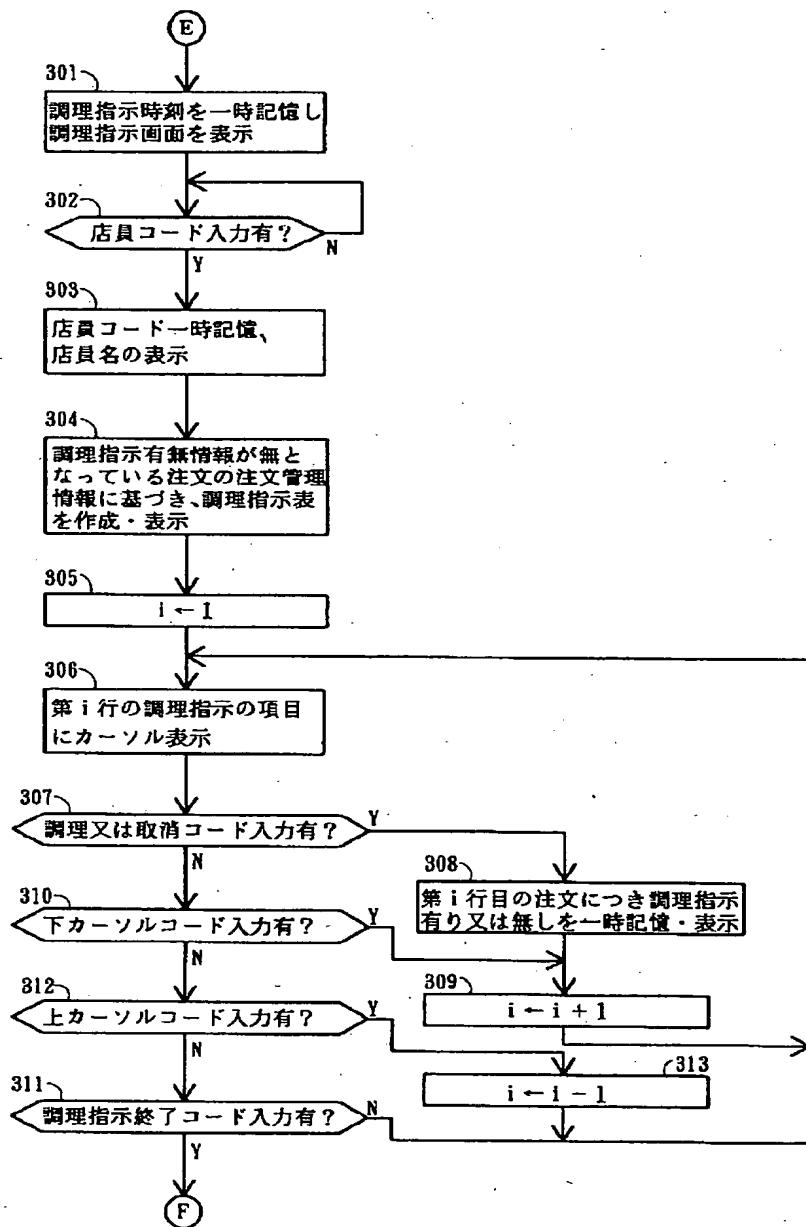
時間	No	エリア	顧客名	電話	調理指示

(2)

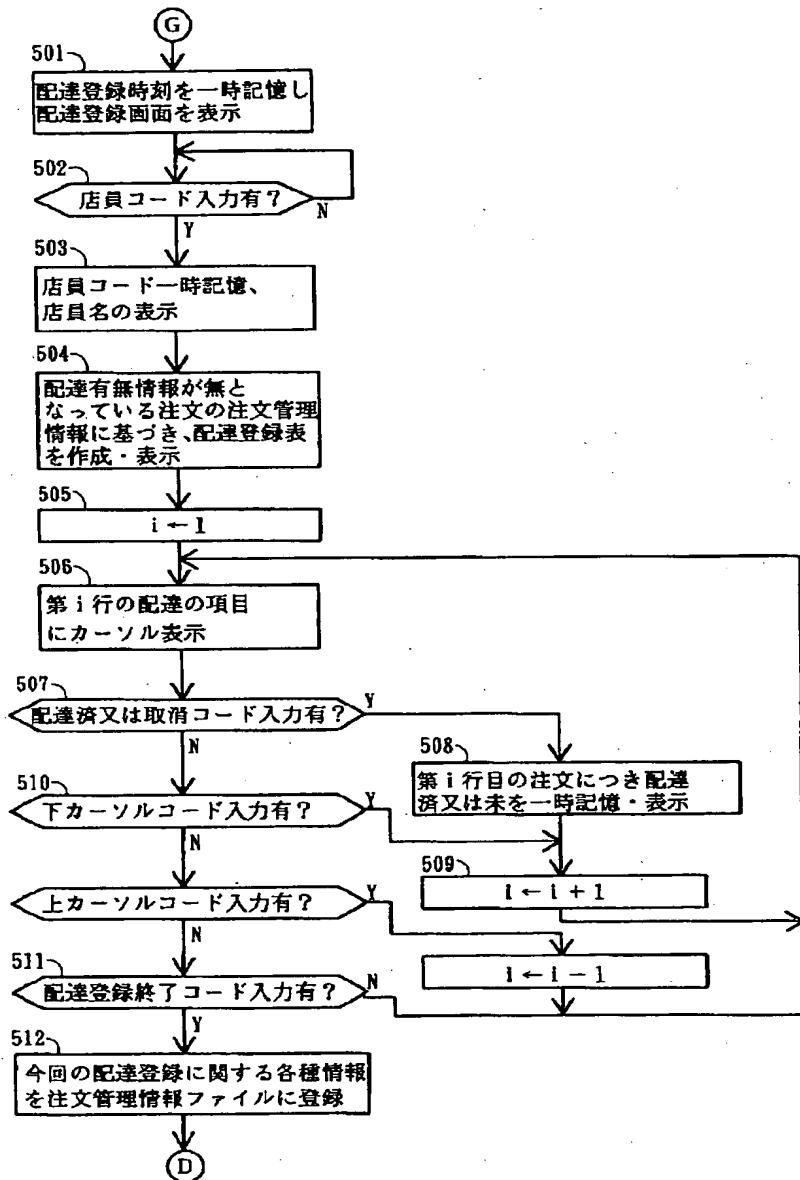
93-10-12 調理指示 店員名〇〇〇〇

時間	No	エリア	顧客名	電話	調理指示
AM11:30	1	1	〇〇〇会社	23-0034	
AM11:35	2	5	〇〇〇〇	xxxx	
AM11:39	3	1	〇〇〇〇	xxxx	
AM11:44	4	4	〇〇〇〇	xxxx	

【図6】



【図8】

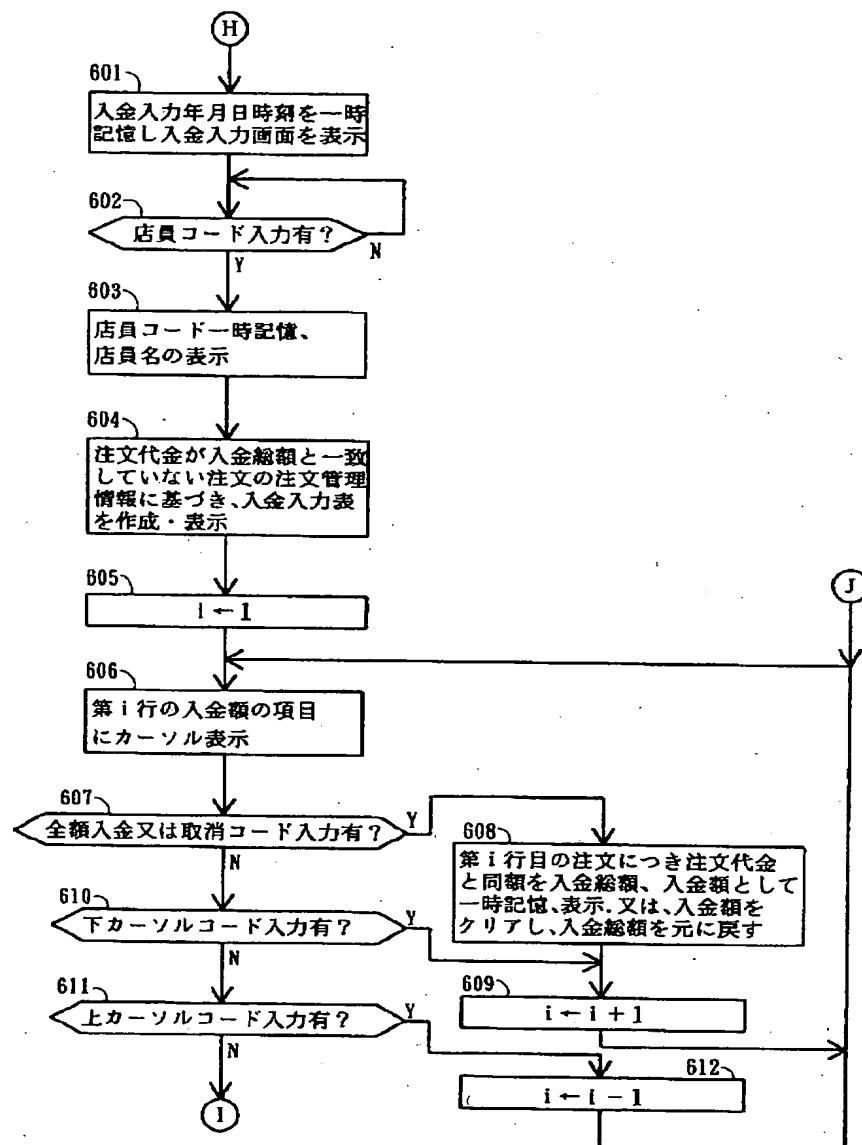


【図19】

98-10-12 配達登録 店員名XXXX

時間	No	エリア	顧客名	電話	往來代金	入金額	配達	容器
AM11:30	1	1	○○○会社	23-0034	1800		有	
AM11:35	2	5	XXXX	xxxx				
AM11:39	3	1	XXXX	xxxx	1500		有	
AM11:44	4	4	XXXX	xxxx				

【図9】

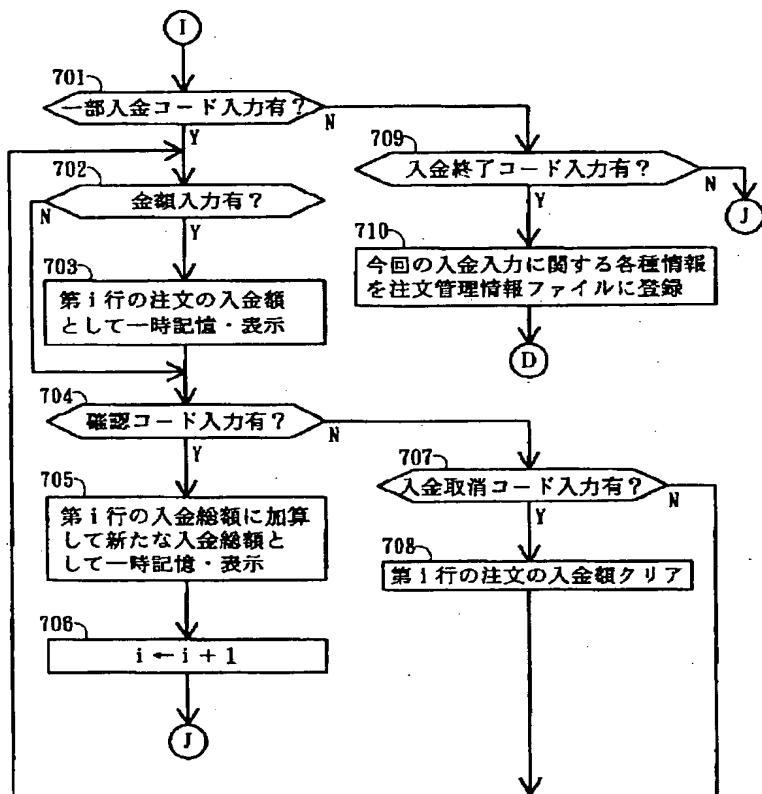


【図20】

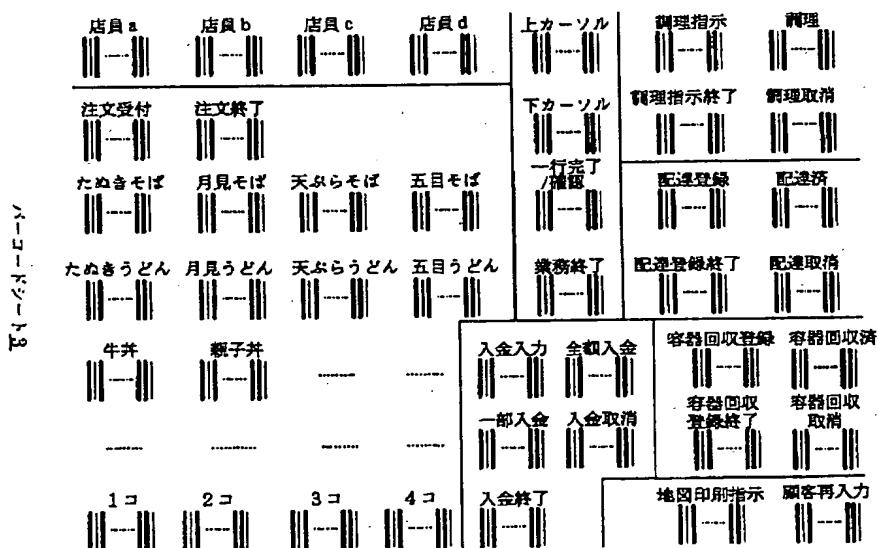
89-10-12 入金入力 店員名〇〇〇〇

月日	No	エリア	顧客名	電話	注文代金	入金額	入金額	配達	容器
10-12	1	1	〇〇〇会社	23-0034	1800	1800	1800	有	
10-12	2	5	〇〇〇〇	xxxx					
10-12	3	1	〇〇〇〇	xxxx	1500	1000	1000	有	
10-12	4	4	〇〇〇〇	xxxx					

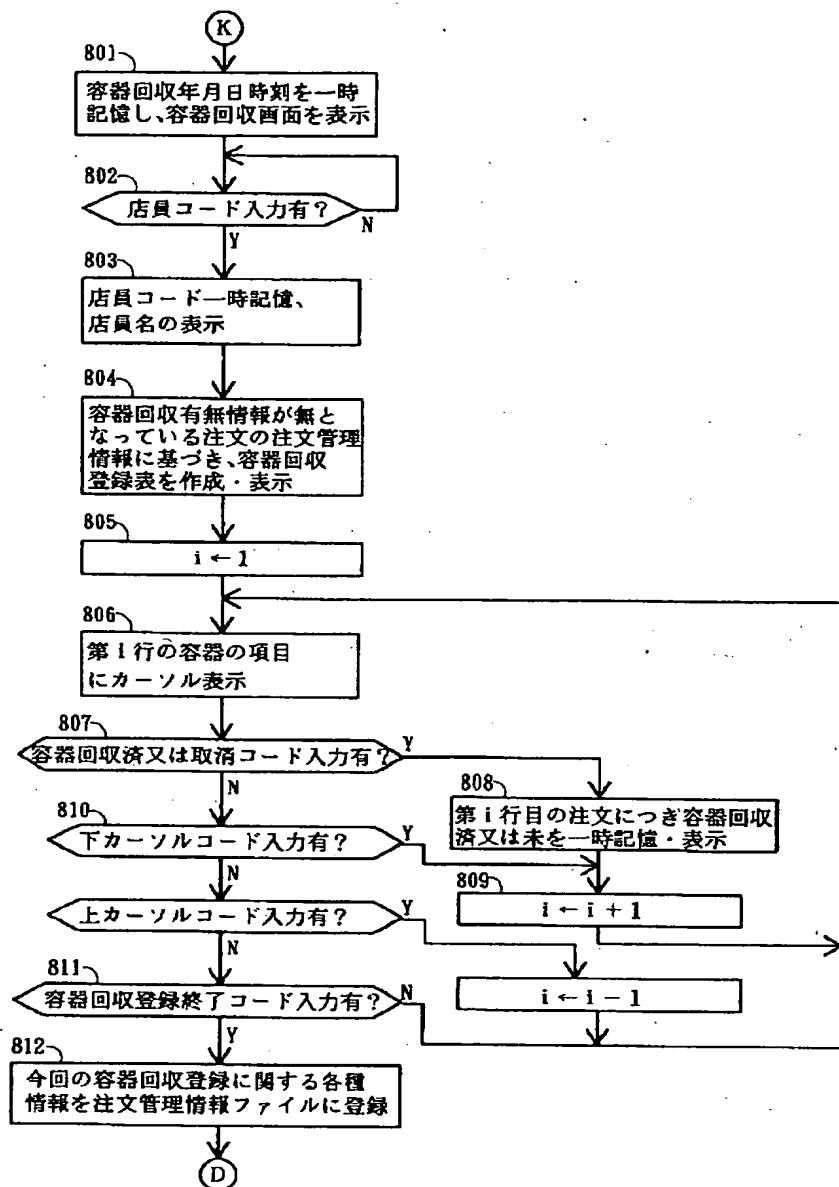
【図10】



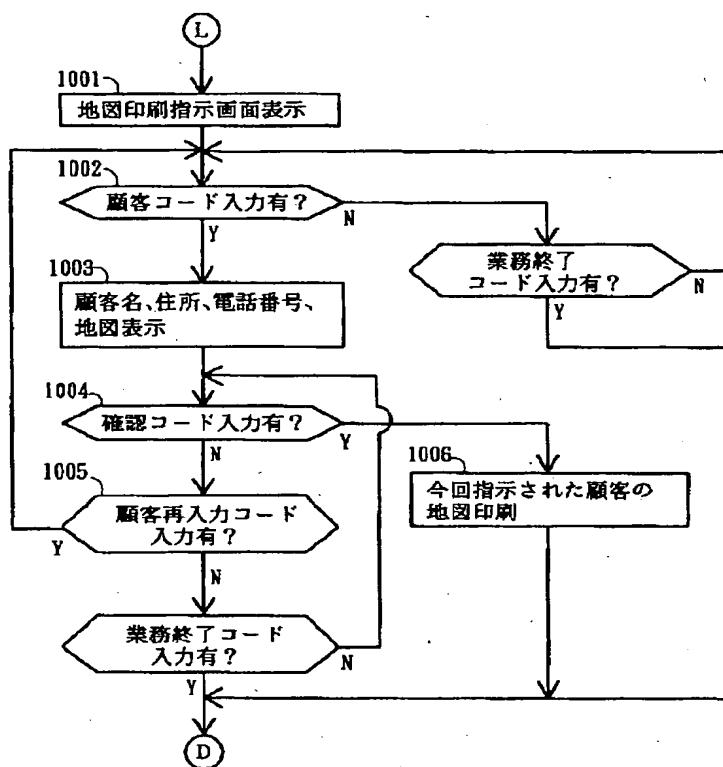
【図13】



【図11】



【図12】



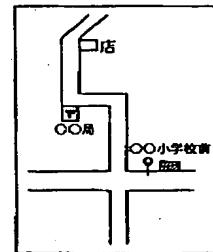
【図22】

(1)

地図印刷
93-10-12
電話番号
顧客名
住所
確認

(2)

地図印刷
93-10-12
電話番号 23-0034
顧客名 OOO会社
住所 高崎市OO町OO
確認



【図15】

(1)

93-10-12
電話番号
顧客名
担当者名
確認

(2)

93-10-12
電話番号 23-0034
顧客名 OOO会社
担当者名 OOOOO
確認

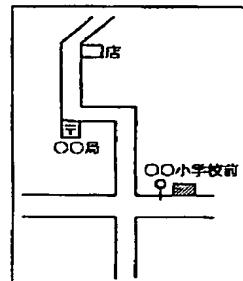
【図23】

調理指示書
93年10月12日 調理部署1

商品名	数量
たぬきそば	2

調理指示書
93年10月12日 調理部署3

商品名	数量
牛丼	1
親子丼	3



【図21】

93-10-12 容器回収 店員名○○○○

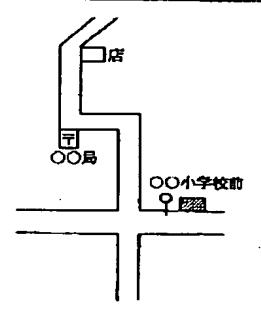
月日	No	エリア	顧客名	電話	注文代金	入金額	入金額	配達	容器
10-12	1	1	○○○会社	23-0034	1800	1800	1800	有	有
10-12	2	5	○○○○	xxxx					
10-12	3	1	○○○○	xxxx	1600	1000	1000	有	有
10-12	4	4	○○○○	xxxx					

【図24】

10a お買上伝票 93年10月12日 1
○○○会社 ○○○○○様
高崎市○○町○○○
23-0034

商品名	数量	単価	金額
たぬきそば	2	650	1300
牛丼	1	500	500
代金			1800円

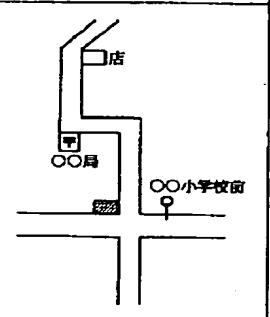
味の正屋 26-2142



10b お買上伝票 93年10月12日 1
○○○○
高崎市○○町○○○
xx-xxxx

商品名	数量	単価	金額
親子丼	3	500	1500
代金			1500円

味の正屋 26-2142

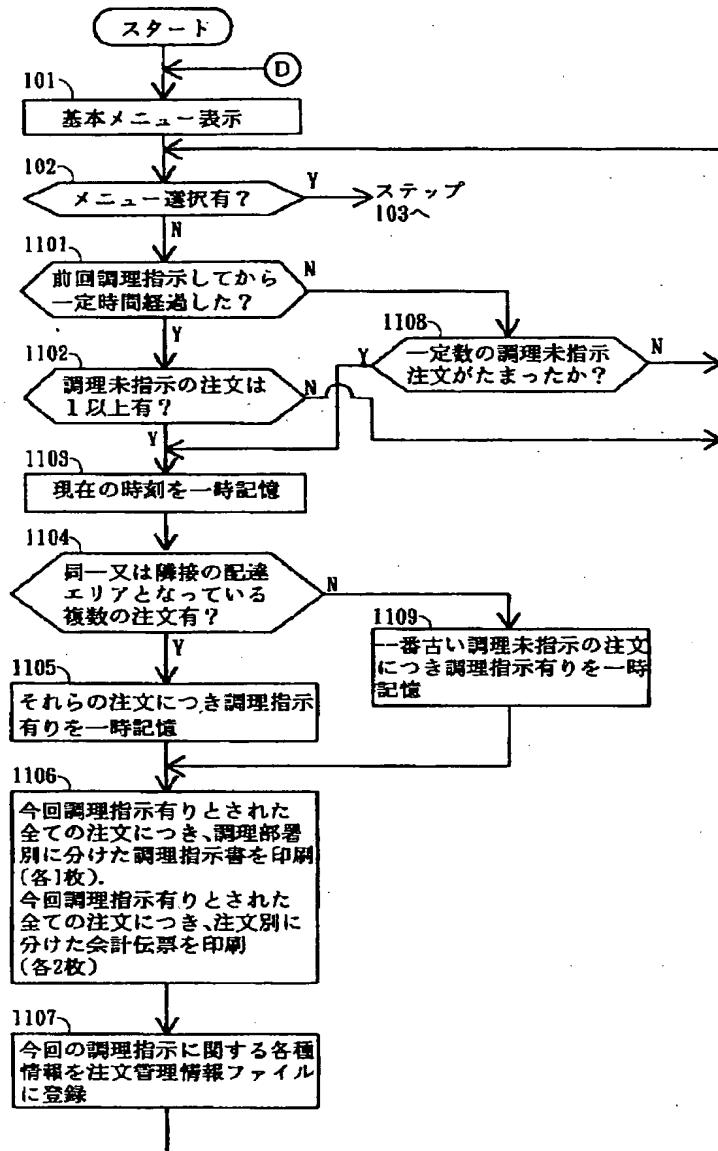


【図28】

9c 調理指示書 93年10月12日

調理部署1	調理部署2	調理部署3	
商品名	数量	商品名	数量
たぬきそば	2	牛丼	1
		親子丼	3

【図27】



【図29】

貢上伝票

93年10月12日

配達エリア	1	配達エリア
貢上伝票		
93年10月12日		
1		
OOO会社 OOOOO様		
高崎市OO町OOO		
23-0034		
OOOO 様		
高崎市OO町OOO		
XX-XXXX		
商品名 数量 單価 金額		
たぬきそば 2 650 1300		
牛丼 1 500 500		
代金 計 1800円		
商品名 数量 單価 金額		
餃子丼 3 504 1500		
代金 計 1500円		
店		
OO局		
OO小学校前		
店		
OO局		
OO小学校前		

